

映像で地域を元気に！

【取組】門真国際映画祭事業
【地域】門真市
【団体名】特定非営利活動法人門真フィルムコミッション

☆門真国際映画祭事業とは？



ノミネートされた海外映画に自分たちで日本語訳の字幕を作成し、国内と海外の作品の映像を上映、関西では最大規模の応募数を誇る映画祭として開催しています。

その他、地域の魅力を発信する事業として、奈良の東大寺で開催された夜間法要の撮影を行ったり、Webを活用した動画を配信するなど、映像を軸として、様々な事業を展開しています。

☆理事長の奈須さんからお話を伺いました！

<自分たちで映画祭を作りたい>

◇ 経験を活かして

2016年にロケ撮影の支援団体として発足しました。発足当時は3人程度のメンバーでやってたんですけども、その直後すぐ20人ぐらいになりました。もともと演劇界で私が活動していたこと、その他のメンバーも演劇界や商業演劇に関わりがあったり、小劇場をやっていたりと、映像にかかわる者が実行委員みたいな感じで集まって、どんなことをやりたい、こんなことやりたいみたいな話をしたんです。経済が上向きのときは演劇界からテレビにピックアップしていただいたり、仕事として演劇人が食べていける何かがあったのですが、私が演劇界にいたときは経済が停滞していついて、文化にお金を払うという体力が企業になくなってきていました。それなら、自分たちでそんな人たちがやっていける状態を作りたい、そんな思いからNPO法人を始めました。



◇ レッドカーペットを門真に

今がんばっている私たちの先輩や後輩たちの道筋を作るということになるかなというところで、映画祭やりたいなど。それも地元の門真でやりたい、また有名な映画祭でやっているような単にレッドカーペットを敷いてということだけではなく、その上でダンスをすとか、そんな映画祭をめざしていくのは一つの方法かもしれないと考えたんです。

ただ、チケット等を買ってもらってお金をいただいて、見に来てもらうということになると、どうしてもビジネスになっちゃうというか、要するに非営利ではないと見られるんですよ。自由にお金が使えてというわけではないので、当たり前なことなんです。でも世間的に見ると、営利目的にしか見えないというか、チケットを買ってもらったそのお金で制作した作品なんですけど、世間はそういうふうに見ないので、そういうところの受け皿としても、公共的な映画祭みたいな感じにしよう。自分たちの作品だけではないものも上映されますってなると、2,000円のチケット代をもらっても来ていただけないんじゃないかと。さらに自分たちで今まで作った映画で市民の方も出てくださいたら、地域で作った地域の映画を、映画祭として応援するということを掲げながら、演劇人が食べていけるような、映画として世界に発信できるすごく強力なコンテンツを作るっていうことを、理念とすべく国際映画祭にしようということになったんです。

そこから、映画の世界の共通言語は英語なので、これまでのつながりを活用して、ニューヨークに支局を作って、本格的に取り組み始めました。

<みんなでゾンビになろう！>

◇ 口コミで広がって

1 時間の間に 20 分ほど映像を見ていただいて、20 分メイク体験して 20 分撮影させてもらってという、すごく充実してほんまおもしろいといういいパッケージを作ったんです。でも、最初来てくださったのが 3 人でした。もともとコロナ禍のはざまで作ったので、宣伝期間があったわけじゃないんですよ。2 週間前ぐらいに、今から 2 週間後だったらできるっていう判断がようやくできるような時期だったから、イベントの告知を始めたのは 2 週間前だったんです。だからそんなもんやろと思ったんですけど、やっぱり少ないなと思ってたんですよ。でも参加してくださったその 3 人の方々は、本当楽しかった、やっぱり映画に残すんやから、これを SNS とか Facebook とかで投稿したらあかんよねって言われたんですけど、いやいや全然大丈夫ですと。そういう顔、メイクが世に出てても、映画のネタバレには絶対ならないので、全然やってくださいとお願いしました。

◇ みんなが主役



映画自体の作り方は本当に変わっていて、もともと脚本があるわけではないんです。っていうのは当日何人の方がワークショップに参加して下さって、どれぐらいのパフォーマンスをして、その 10 分の撮影時間で映画に協力して下さるのかっていうのは、本当わからないですよ。つまり、当日の天候がどうなのか、その方がどれぐらいのパフォーマンスで協力して下さるのかっていう不安定要素ばかりの中で脚本を作ってしまうと、絶対合致しないから、脚本を作らないでください。素材を取って、その集まった素材を後付けで物語にしていくっていう方法を実践しました。

最初は 3 人だったのが、一番多い時で 50 人、1 日 4 コマとか 6 コマやっていましたが、最終的には 4 コマでフレキシブルやろうということで落ち着きました。こんな規模でゾンビが出てくるのは、商業作品ではなかなかないので、マンパワーってほんとすごいですし、楽しいです。

<これから> もっと野外での活動を広げる

もっと地域貢献、社会貢献をしていきたいですね。具体的には、門真市駅前の高架下で野外映画館を開催したんですけど、もっと増やしていきたいです。これは門真市の社会実験の中で実施したもので、会場は京阪本線と大阪モノレールの高架下のオープンスペース。騒音の中でも音声を聴くことができる「電波くん受信くん」というシステムを開発、ヘッドフォンをつけると映画の世界に浸ることができます。こんな形で気軽に映像と触れ合える機会を作っていけたらと思っています。

また、被災地でも映像をお届けできたらと思いますね。通常、映像を上映する際はそれなりの金額を払わないといけないんですけど、これまでのつながりで安い金額で提供することができます。

がれきの撤去をしている中でも、ちょっとホッとできるような、そんな世界に入ってもらえたら。そういう映像をお届けできるようなしくみができればと思っています。やっぱり地域貢献と社会貢献、野外で被災地とか電源がないところから電気を作って、炊き出しの横で映画を上映する、そんなことができたらと思っています。



<メッセージ> 頼ってもいい

頼むということがすごく大事だと思います。一度こちらが頼ったら、例えばこういうことでちょっと力を貸してください、じゃあやりましょうとなるわけです。最初にどちらが頼るのかっていうことはあると思いますが、自分たちの団体だけでは限界があると思うんです。なので、一度頼ったら嫌な顔はしないという、そんな関係性ができれば総合的にいいかなと思います。

頼むことの連鎖ってすごくあって、頼られた時に断らないといけないこともあると思います。でも即答で断るのではなくて、いったん考えて自分たちではできないのか、ほんとにできない、じゃあ自分たちではできないならどこならできるのか、それがなければどうやって断るのか、そういうところも含めて関係性を作っていくことが大事だと思います。